

高校人国記

広島女学院高校(広島市中区)①

「人のために」

信念持ち活躍



広島女学院の西校地。正面左が高校校舎、右が体育館。その背後に道路を隔てて東校地がある



＜校名＞広島女学院中学高等学校
 ＜所在地＞広島市中区上幟町11の32
 ＜校長＞渡辺信一 (14代目)
 ＜クラス数＞高1年は6クラス、高2、3年は各5クラス
 ＜生徒数＞高校は642人
 ＜校名の変遷＞1886 (明治19) 年、広島女学会▽87 (同20) 年、私立英和女学校▽96 (同29) 年、私立広島女学校▽1906 (同39) 年、財団法人広島女学院▽32 (昭和7) 年、財団法人広島女学院▽同年、広島女学院高等女学部▽43 (同18) 年、広島女学院高等女学校▽48 (同23) 年、広島女学院高等学校▽現校名の広島女学院中学高等学校になった時期は不明
 ＜校章＞信仰の盾に初代校長N・B・ゲーンズの愛したアヤメと学校の標語「われらは神とともに働く者なり」のラテン語を配した



東京大大学院修士課程2年 大小田結貴

東京大(東京都文京区)の正門を入るとイチヨウ並木が続く。正面に大学のシンボル・安田講堂。その背後の理学部棟で大小田結貴(24)は研究を続ける。大学院修士課程2年。昨年末、英BBC放送による世界の人々に影響を与えた2018年の「女性100人」に選ばれた。アルマ望遠鏡(チリ)の観測データを解析。生まれたばかりの原始星の周りに既に惑星系のもととなる回転円盤が形成されているのを発見し、従来の定説を覆したのだ。

「高校2年の時、物理は若い女性の先生でした。教えることに情熱を燃やし、授業はとても分かりやすかった」。物理によって宇宙を知ることができた驚き。相対性理論。太陽系外惑星…。授業以外の場でも質問を重ね、興味は深まった。九州大で物理を専攻。東京大大学院へ進んだ。今回の発見が他の原始星にも当てはまるかを現在、研究中。「高校時代には自分で考えて行動することも学び、それが現在につながっているような気がします」

広島女学院高は1886 (明治19) 年、牧師砂本貞吉が私塾「広島女学会」を開いたのが起源。広島における初の女学校だった。以来133年、キリスト教の教えを基本的な理念としてきた。現在は中高一貫制。卒業生は学術、文化、芸能、放送など多彩

原始星の観測データ解析。定説覆す

な分野へ進出し、平和問題や貧困対策など国際的な貢献活動をしている人も目立つ。



日下美穂

呉市で開業する医師日下美穂(63)は「人のために尽くすこと、良いと思ったら信念を持って突き進むこと」などを女学院時代に学びました」と言う。2007 (平成19) 年から、高血圧予防のため塩分の摂取を減らす「減塩」を提唱。呉や広島で減塩サミットを開き、NHKなどのテレビ番組にも出演した。さらに飲食店へ、減塩してもおいしいメニューづくりを呼び掛けている。

「食塩の取り過ぎは血圧を上昇させ脳卒中や心筋梗塞を起こします。日本では4200万人が高血圧患者ともいわれるけど、治療するだけでは患者は減らないのに気付いて、診察室から街へ出てみようと思ったのです」。13年から呉市が学校給食の塩分を減らすなど減塩食生活の推進に着手。17年には食育推進功労者として県知事表彰を受けた。

日下と共に減塩に取り組んでいる料理研究家である派ストランのオーナー黒田千晴(62)も女学院高卒業。広島大病院の医師恵美純子(44)は乳がんの早期発見のため広島市や周辺の高校、大学などを訪れ、ほとんどボランティアで出張講座を開いている。



大国和江

大国和江(80)は広島弁護士会の会長を経て、2003 (平成15) 年から2年間、女性で初めて日本弁護士連合会副会長を務めた。

テレビやイベントで「減塩」提唱。診察室から街へ



高林真澄

た。広島女学院高としても初の弁護士とみられる。「女学院に入った頃、社会は荒廃していた学校もまだ復興していなかった。でも学校には外国人の宣教師がいて毎日礼拝があり、初めて接した米国文化はまるで異世界。そこでは一人一人の人間を大切に、平和を尊ぶことを基本にしていたように思います」

「弁護士活動の基本である基本的人権の尊重や社会正義は、社会のみんなと手を携えてこそ実現される。その点で女学院教育と基本的な考え方が一致しているのではないだろうか」

出版界には季刊誌「Grandeuro」し、編集長の高林真澄(63)がいる。2人目の子を出産した直後、中国新聞夕刊の「女のページ」の記者に、家族の理解もあって子育てと仕事を両立させながら、女性としての自己実現を目指した。やがて同じ記者仲間たちと出版社「グリーンブリーズ」を設立。生活者の視点で社会を捉えることを基本に、情報誌などを発行してきた。個性あふれる先生方から、社会には多様な生き方があり、大切なのは「隣人愛」だと学んだ。お嬢様学校と思われがちだが、この教えは卒業生の共有するところだ。敬称略(客員編集委員・富沢佐一)

次回は18日に掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介していきます。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677 広島市中区土橋町7-11 中国新聞編集局「高校人国記」係メールは、bokou@chugoku-np.co.jp